

ー 次の問いに答えなさい。

1 次の(1)～(6)の文中の傍線を付けた漢字の読み方を書きなさい。また、(7)～(10)の文中の傍線を付けたカタカナを漢字になおし、解答欄の枠内に書きなさい。ただし、漢字は楷書で、大きくていねいに書くこと。

- | | |
|--------------------|-------------------|
| (1) ボールが転がる。 | (2) 寒い日が続く。 |
| (3) 歌を輪唱する。 | (4) 綿密な計画 |
| (5) 魚を商う店。 | (6) 二つの役を兼ねる。 |
| (7) ヨウモウをつむいで糸にする。 | (8) ノーベル文学シヨウの候補者 |
| (9) 荷物をトドける。 | (10) ケワしい山を登る。 |

2 次の文中の、「延期になったのは」と「降っていた」の関係は適切ではありません。適切な関係になるように、解答欄の「降っていた」のあとに、**ひらがな三字**を加えなさい。

イベントが延期になったのは、朝からたくさん雨が降っていた。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

初めて出会ったのはモミヤツガの原生林の中でした。大きな倒木の向こう、薄暗い地面をととっと横切っていく黒っぽい影は、ふさふさのしっぽが走って行くようにしか見えませんでした。黒い幹の根元に消えたとと思うと、もうどこへ行ったのか、見失ってしまいました。リスのしっぽがあんなに目立つものなのだと、そのとき初めて知りました。

その後、何度もリスとの出会いはありますが、最初の「しっぽが走る」情景がいまだにまぶたから消えません。日中に活動する動物なので、他の哺乳類に比べると見つけやすく、じっくり観察させてくれることもしばしばです。冬の森の静けさを壊さないようにそっと歩いていけば、きっと出会えるでしょう。冬は、リスが自分でたくわえておいた木の実を探したり、見つけ出したりする姿が見られる時期。彼らの冬の食べ物のはほとんどは、秋に自分のなわばりに1粒ずつ埋めておいたクルミやドングリなどの木の実です。それらをするとい嗅覚で見つけたし掘り当てるのです。**ア**

食べ物をたくわえることを「貯食行動」といいますが、その行動をとらせる

4 **②** 土に埋められることとあるが、本文中で筆者は、ドングリにとって土に埋められることは、どのようなことだと述べているか。その内容についてまとめた次の文の **□** に入る内容を、本文中のことを使って**十字以上十五字以内**で書きなさい。

ドングリにとって土に埋められることは、動物に食べられることなく **□** ことだ。

5 次のうち、本文中の **③** に入れるのに最も適していることはどれか。一つ選び、記号を○で囲みなさい。

- ア まるで イ 決して ウ まさか

三 次の【本文】は、書物を読むことについて述べられた文章である。【本文】と、その内容についてのAさんとBさんとの【会話】を読んで、あとの問いに答えなさい。

【本文】

書物を見せんには、あるいは一部、あるいは一巻のうちを縦横に見覚えずとも、まづするすると端より奥まで見とほすべし。しかあれば、部あまたにあたりて**広智なるべし**。一部のうち**一篇など**、本末よくよく心得落とさじとせば、道とぐることかたし。たとへば、京へ上らんと心ざす者の、里の辺、あるとあらゆる道をよくよく尋ね、海山の次第を覚えて、帰らん時のためにせんと思はば、心ざしたづらに費へて、退屈の儀もありぬべし。さきさき、大概見渡して、その里の辺に松あり、その所には河ありと心あてをしてとほるべし。そのごとく、物の本をもしかじか**見覚え候はねども**、引きとほしてみれば、物に合ふ時思ひ合はくわしく読まなくとも、引きとほしてみれば、物に合ふ時思ひ合はすること多し。

引き金は木の実が握っているという説があります。**イ** 落ちたばかりの秋のドングリは、タンニンという渋み成分を含んでいます。これは森の動物たちに食べ尽くされないためのドングリの防衛手段。**ウ** 土に埋められ冬を越したドングリは、渋みが抜け食べやすくなっていて、リスにとってはおいしい冬の食糧となります。

一方、リスが埋めたまま食べ忘れたり、埋めた主がいなくなってしまうたりしたら、ドングリにとっては発芽して育つチャンスです。それは、親の木の根もとからずと離れた新天地かもしれませぬ。それに、埋められていなかった、サルやクマなど他の動物に食べられてしまったかも知れませぬ。たくわえられること、すなわち森のあちこちに運ばれ、土に埋められることは、ドングリにとってもチャンスをもたらうことだったのです。

枝から枝へ風が渡っていくように、ほら、今日もしっぽが走っていきます。流れるような身のこなしで枝を移り、走ってゆく様子は、**③** 木々の方からリスに枝をさし延べているかのよう。それはまさに森との一体感です。(ヒッキオ『森の「いろいろな事情があります」』による)

1 本文中のA～Cの――を付けた語のうち、一つだけ他と活用形の異なるものがある。その記号を○で囲みなさい。

2 **①** 次の食べ物とあるが、本文中で筆者は、リスはどのようにすることで冬に食べ物を手に入れることができるか述べているか。その内容についてまとめた次の文の **□** に入れるのに最も適しているひとつづきのことを本文中から**十七字**で抜き出し、**初めの四字**を書きなさい。

リスは、秋に自分のなわばりに埋めておいた木の実を **□** ことで、冬に食べ物を手に入れることができる。

3 本文中には次の一文が入る。入る場所として最も適しているものを本文中の **ア** ～ **ウ** から一つ選び、記号を○で囲みなさい。

この渋みがリスに、「この場では食べずにとっておきなよ」とそそのかしているかのようです。

【会話】

Aさん 筆者は、書物を自分で読むには、まずはするするとはじめから終わるまで読み通すことが大事だと言っているね。
Bさん そうだね。でも、なぜそうすることが大事なのかな。
Aさん 筆者は、書物をするすると読み通すことで、書物にたくさんあたることとができ、広く知識を得ることができると言っているよ。
Bさん なるほど、筆者は、書物の一部分について、よくよく理解して読み落とさないようにしようとするど、「道とぐること」、つまり「**②**」は難しいと言っているね。
Aさん 筆者はそのことを都へ行くという人に例えて説明しているね。都へ行くためには **③** と言っているよ。
Bさん 筆者は、この例を通して、書物をするすると読み通すことで、物事に直面するときに思いあたるが多くなるということと言っているんだね。

1 **①** だとへばを現代かなづかいになおして、すべてひらがなで書きなさい。

2 次のうち、【会話】中の **②** に入れるのに最も適していることばはどれか。一つ選び、記号を○で囲みなさい。

- ア 書物の名前を覚えること
イ 書物を読み通すこと
ウ 書物をたくさん所有すること

3 次のうち、【会話】中の **③** に入れるのに最も適していることばはどれか。一つ選び、記号を○で囲みなさい。

- ア 通る予定がある場所をしつかりと理解し、里の位置を確認するとよい
イ すべての道について十分に尋ね、海山の様子も覚えておくことよい
ウ だいたいを見渡して、どの辺りに松や河があるのかなどを見当を付けるとよい

四 次の文章は、大学の教授である筆者（私）と学生達が、大学の授業でトースターを分解しようとしている場面の一部である。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

「面白いからと言って、やみくもに分解しないように。まず、この器具がどのようににその役割を果たしているか、想像しなさい。そして、解き明かしたい謎を見つけてください」

私とK教授は、三手に分かれ、私はトースターの分解チームについていた。そして、先ほど言ったことを実践させるために、朝購入したあるものをトートバッグの中から取り出した。

「トースターのふるまい、扱いを知るために、^①この食パンを焼いてみましょう」学生達は、厚切りのイギリスパンに色めきたった。中には、教室を抜け出し、研究室の冷蔵庫からジャムとバターを持ってきた強者もいた。

実際に、そのトースターを使って観察してみると、いろいろなことが分かった。食パンをスロットに差し込み、脇の大きいレバーをグッと押すと食パンが下がっていく。

それと同時にパンはそのスロットの中で、両面を両脇から粗い金網のようなもので軽く押さえられた。これは初めて知った機構である。一体何のために？脇のレバーのそばにボタンがいくつもあり、焼き上がりのこんがり度が選べるようになっていた。これもどういう仕組みなのか？

そのうち、ボンという音がして、パンが飛び出してきた。香ばしい匂いが教室に充滿し、トースターチームは思わぬ朝食にありつけることになった。

「表面はこんがり焼けてサクツとしているのに、中はしっとりしておいしい」という声が聞こえた。みんなの家には、こんな形のトースターはないの？と尋ねると、そのチーム5名全員とも「ない」とのことだった。どの家もオーブントースターでパンを焼いていた。

「先生の家にはトースターあるんですか？」と、遠慮のない質問が飛んできた。「もちろんありますよ。やはり食パンはこのトースターの方がおいしいです」と答えると、トーストを頬張ったままの声で「たしかに」「たしかに」と賛同を受けた。

トースター分解チームは下を向いてしまった。中学の理科は義務的に接していたのである。でも今のタイミングには、おいしいトーストという義務とはかけ離れた味方がいて、教育には最適な状況である。私は答えを言った。「伝導・対流、そして放射。これが熱の3つの伝わり方です。そしてトースターはその放射を使って食パンを焼いているのです。放射とは英語ではradiation、四方八方に発することです。ラジオなども放送局から電波をradiationするところから、そう呼ばれています。だから食パンがムラ無くきれいに焼けるんですね」

学生達は、このおいしさにちゃんと理があった事が分かり、^③神妙な面持ちであつた。

（佐藤雅彦『考えの整頓 ペンチの足』による）

（注）アドリブ 〓 ここでは、その場の思い付きでこぼをしゃべること。

享受 〓 与えられた物事を受け取って、楽しむこと。

担保 〓 保証。

神妙 〓 素直でおとなしいさま。

1 本文中のA、Cの――を付けた「の」のうち、一つだけ他とはたらしきの異なるものがある。その記号を○で囲みなさい。

2 ^①この食パンを焼いてみましょうとあるが、本文によると、筆者が食パンを用意したのは、学生達に何を見つけさせるためか。その内容についてまとめた次の文の□□に入れるのに最も適しているひとつづきのこぼを、本文中から八字で抜き出さない。

トースターをやみくもに分解するのではなく、器具の役割を想像した上で、□□を見つけさせるため。

「では、^②トースターのふるまいを確認したので、冷めたら分解に入りましょう」しかし、パンを数枚焼いたトースターはかなり熱い。中を分解できる温度になるには、もう少しかかりそうである。時間が惜しい私は、アドリブでこう話し出した。

「冷めるまでの時間を利用して、トースターのことをあれこれ考えてみませんか」

一体、トースターの何について考えるのかと言わなければかりに、みんなが私を見返した。

「そもそも、なぜ表面がきれいにカリッと焼けて、中はしっとりしておいしいのでしょうか」

私は、そんな根源的な質問を投げかけた。みんな黙ってしまった。おいしいだけでは享受したくせに、そのおいしさを担保してくれている技術に関しては考えようとしなかったのだ。

私は、仮説はこう立てるのだということを示すように、次のように話した。「表面が一樣にカリッと焼けるということは、パンの表面のすぐ近くに平面状にヒーターがあるからではないでしょうか」

「――そうか、短時間に表面だけが焼けるから、まだ中はしっとりなんだ」学生の一人がつぶやいた。

「そうですね。これがヒーターが少しでも遠くにあると、表面が焼けるのに少々時間がかかり、その間に中のしっとり感も失われてしまうんですね。私はさらに続けた。

「先ほど観察した食パンを両脇から押さえる機構は、ヒーターとパンとの距離を、両面とも均等にする機構だと思います。うちにあるトースターはそれがないので、パンが斜めに入ったりして焼き方にムラが出てしまっている」

なるほど、という小さな声があちこちから聞こえた。次に私は、意地悪く、こんな質問をした。

「熱の伝わり方には3種類ありましたよね。中学の理科で習ったはずですが、このトースターでは、その中のどんな伝わり方をしているのでしょうか」

3 ^②トースターのふるまいとあるが、本文中で筆者は、どのようなことを「トースターのふるまい」と表現しているか。次のうち、適切なものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

A 脇の大きいレバーが押されると、スロットの中の食パンを下げていくということ。

I 食パンの両面を両脇から粗い金網のようなもので軽く押さえるということ。

U 表面はこんがりとしてサクツとしているのに、中はしっとりしておいしいということ。

4 ^③神妙な面持ちであつたとあるが、本文中で筆者は、学生達が神妙な面持ちになったのはなぜだと述べているか。その内容についてまとめた次の文のa□□に入れるのに最も適しているひとつづきのこぼを、本文中から九字で抜き出さない。また、b□□に入る内容を、本文中のこぼを使って十五字以上、二十字以内で書きなさい。

学生達はトーストのおいしさを享受したのに、そのおいしさをa□□トースターの技術に関しては考えようとしなかったが、筆者が投げかけた質問や仮説に沿って考え、中学の理科で習ったことを確認したこと、トーストのb□□から。

